

2023年度水環境文化賞を受賞して

筑後川まると博物館運営委員会 副館長 鍋田 康成

2023年は当会の創立20周年にあたり、その記念の年に荣誉ある水環境文化賞をいただき感謝いたします。

当会は、筑後川流域全体をまると「ひとつの博物館」とみなして、自然、環境、文化、歴史、など地域のありのままの姿を流域内外の人々に伝えることを目的として、久留米大学の公開講座「筑後川流域講座」の市民受講生や大学の先生方が中心となり2003年に発足しました。筑後川防災施設ぐるめウスを拠点に大人向け学習会や子ども向け環境教室などを行い、多世代が筑後川を学ぶことができる体験学習活動を行っています。

当会の活動の特色は、久留米大学との協同で「筑後川流域講座」を20年間に亘り運営し流域住民に地域学習の場を提供し続け、その講座の受講生から学芸員に認定された者が当会の活動メンバーになるという、他に例のない独自の人材育成の場となっていることです。また、独特な筑後川流域の歴史を含む流域の研究や川と親しむ活動の発表紹介の場ともなっています。さらに、流域全体を「屋根のない博物館」とみなすエコミュージアムとして筑後川に関わるさまざまな活動を行っています。これらの活動を支えているのは市民中心であり、流域の関係団体と連携協力しながら、分野を超えた幅広い活動と、幼児から高齢者まで参加できる多彩多様な活動を行っています。広報活動としても、20年以上に亘り隔月発刊の「筑後川新聞」の編集に関わり流域内に情報発信を続け、2019年には新評論社から『筑後川まると博物館』を刊行し、また『高良川昆虫図鑑』および続編の『昆虫と植物図鑑』を発刊し、図鑑は久留米市内の全小学校、市立図書館等に寄贈しています。

当会が受賞した社会文化活動はこのような「筑後川の文化伝承・学習・環境保全活動」として、当会の20年に及ぶ多様な活動が評価されたものと考えます。その主な活動を以下に紹介します。

1. 「筑後川流域講座」

久留米大学でのこの公開講座は毎週月曜日に年30回行い20年間実施してきました。学生にとっては正規の授業であり、一般市民は無料で自由に参加できます。近年は毎回100人前後が受講、流域の研究者や、各地で活動する人々を講師に迎え、筑後川のありのままの姿を伝え学ぶことを目的としています。過去20年で650回の講義と現地学習を重ね、延べ受講者数は7万人以上を重ねています。現地学習は流域各地を訪ね、実際の活動現場を見学、体験して、参加者に感動を与えています。

2. 「筑後川流域大学」

市民が参加しやすい休日の公開講座として2007年に開講。講師は当会の学芸員や久留米大学の先生方を中心に編成。各講師の活動や研究成果を発表し市民に伝え共に学習する場となっています。この間、延べ受講者数は約2,500人以上、2020年からはコロナ禍で一旦休止しましたが2024年から再開します。

3. 「昭和28年筑後川大水害の伝承活動」

過去の大水害を次世代に伝え、その教訓を学び今に生かすため2003年より「大水害の伝承活動」を毎年実施して20年になります。大水害写真展は今まで10万人以上が観覧しました。一般公募で集めた写真など400点以上を使って、流域各地やくるめウスなどで過去71回の企画展を実施しています。またくるめウスでは2004年から、大水害体験者を公募して証言発表会を行い、参加者が次々に体験談を語る熱い場となっています。これまで31回の証言発表会を行い、延べ160人の体験者が発表し、参加者も600人を超えています。

4. 「ちくご川子ども学芸員養成講座」

子どもたちの“得意分野をグリーンと伸ばそう”を目標として2011年から活動し、受講者は6回の連続講座に原則すべて参加します。専門家が子どもたちに密着指導し5回の野外活動を重ねて各自の調査研究を行い、12月の最終回に自分の成果のまとめの作品を作り、研究発表会で各自発表まで行うことが一連の流れです。発表した人には「ちくご川子ども学芸員」の認定書を授与し今まで107人を認定しました。ここには自然や昆虫が好きな子どもたちが集まり、お互いに情報を交換し合い切磋琢磨できる、自己実現の場となっています。



写真1 ちくご川子ども学芸員養成講座

5. 「ちくご川キッズ探検隊」

子どもたちが気軽に筑後川の自然と環境に親しむことを目的として、子ども向けの自然環境体験活動として「ちくご川子ども探検隊」(2004年～2019年)、「昆虫標本づくり講座」(2006年～継続)、「高良川子ども昆虫探検隊」(2020年～継続)、「子ども向けプロジェクトWET体験“水のふしぎ”」(2017年～継続)、を行っています。

6. 「プロジェクトWETエデュケーター講習会」

子どもたちに水についての学びの指導者を養成するこの講習会は、2017年以来11回実施し今まで126名のエデュケーターが誕生しました。指導のスキル上達のため、有志が集まって2017年より研究会を作り、子どもたちと一緒に水について学びながら体験できる「水のふしぎ」の活動を行っています。将来、この中から水のリーダーが現れることを期待しています。

今回の受賞を励みとして、今後も川や水についてさまざまな「学びと体験の場」を提供し水環境の保全と創造に向けて活動を継続していきたいと考えます。